

# 29amF-275

薬剤情報提供文書の記載に関するアンケート調査 — 病院と薬局の比較 —

○大熊 彩加<sup>1</sup>, 三溝 和男<sup>1</sup>, 戸張 裕子<sup>1</sup>, 本多 静子<sup>1</sup>, 武井 佐和子<sup>1</sup>, 浜田 真向<sup>1</sup>,  
別生 伸太郎<sup>1</sup>, 井上 みち子<sup>1</sup>, 水間 俊<sup>1</sup>, 太田 伸<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東京薬大薬)

【目的】調剤した薬剤の情報提供が義務付けられた薬剤師法改正から 15 年が経過し、現在ではほぼ全ての医療機関で薬剤情報提供文書（以下、薬情）が提供されている。しかし、病院における薬情が、患者の処方薬に対する理解を助けるとの報告はあるものの、施設間における薬情の相違点に関する研究は少ない。そこで今回、薬情の記載について病院、薬局での施設間の違いを比較検討した。【方法】本学の長期実務実習 224 施設（病院 63 施設、薬局 161 施設）を対象に、薬情の記載項目に関するアンケート調査を郵送法にて実施した。また、モデル処方について薬情の提供を依頼し、ユーエフティ配合カプセル T100 の効能効果の記載の違いを調査した。【結果】アンケート回収率は、病院 62%ならびに薬局 67%であった。薬情の大きさ・印刷形体については、病院、薬局ともに A4・カラーを採用している施設が 90%以上を占めていた。記載項目については、医薬品の形状（文書）と有効成分において薬局が病院に比べ記載施設が有意に多かった。ユーエフティ配合カプセル T100 の効能・効果の記載については、直接的な表現を用いる施設が、病院が薬局と比べ有意に多かった。（48%vs73%,  $P=0.024$ ）【考察】薬情記載項目では、文書での医薬品の形状と有効成分において、薬局が病院よりいずれの項目も記載施設数が多く、他の項目について施設間に差がなかった。これは、診療報酬、調剤報酬における記載項目の義務化と薬情発行システムが影響していると考えられた。抗がん剤ユーエフティ配合カプセル T100 の効能・効果の表現については、薬局が病院に比べて直接的な表現を用いる施設が有意に少なかったのは、薬局は患者に病名が告知されているかどうか把握しきれないための配慮だと考えられた。